

## 防災教育 猪苗代町立東中学校

キーワード：状況判断，主体的に行動する態度，自助，共助，公助

### I 研究について

#### 1 放射線教育・防災教育に関する学校の課題

本校は、猪苗代町東部に位置し、校舎の北側には観音寺川が流れ、春には川沿いの桜が開花し、桜を愛でる人が多く訪れるなど自然豊かな美しい地域である。

本校は、昭和33年に長瀬中学校と月輪中学校が統合して東中学校として創立し、当初は、11学級、生徒数440名でスタートした。また、平成12年に現在の校舎が完成して今年で21年目を迎え、学級数も特別支援学級を含めて4学級となり、全校生徒は60名である。

これまでの洪水災害の履歴は、1888(明治21)年の磐梯山噴火以前に4回、噴火後は発生頻度が多くなり、9回の洪水記録がある。

また、2011(平成23)年に発生した東日本大震災時も震度6弱の揺れに見舞われ、負傷者は1名と少なかったものの、住宅全壊や道路破損など大きな被害を受けた。

磐梯山の噴火や東日本大震災などは、月日が経つとともに忘れ去られる傾向があり、防災や減災について当事者意識が欠けてきている。

#### 2 実践概要（授業実践、授業研究会等）

時期	実施内容
7月2日(木)	森林環境学習(1学年) 磐梯山登山道(銅沼)、磐梯山噴火記念館 五色沼自然探勝路
7月29日(水)	防災教育講演会(全学年) 磐梯山噴火記念館 館長 佐藤 公様 ※ 地震、気象災害、猪苗代町の大地のつくり、火山のしくみと災害 土砂災害、災害から命を守るために
9月13日(日)～ 9月15日(火)	修学旅行(3学年)の訪問先で「災害にあったら」のシミュレーション
9月中旬～10月	学年ごとに防災にかかわるテーマを設定し調べ学習など実施 ※ 総合的な学習の時間を利用
10月31日(土)	文化祭で学年ごとに防災についての学習成果を発表

### 3 取組の内容・方法

中学校では、各教科や特別活動等、学校の教育活動全体を通じ、各校の実態に応じた防災教育が工夫・実践されている。本年度、本校においては、「周囲の状況を的確に判断し、主体的に行動する態度」の育成を目的とした防災教育を各学年における総合的な学習の時間と全校体制で行う特別活動の時間をリンクさせながら取り組むことにした。学年ごとに防災に係るテーマを設定し、調べ学習を行った。1年生は「災害時に自分の命を守る方法について考えよう」、2年生は「災害時に自分たちができることを考えよう」、3年生は「災害時に地域で自分たちができることを考えよう」を中心テーマとし、自助・公助・共助を意識した内容で調べ学習を進め、発表につなげたいと考えた。

## Ⅱ 研究の実際について

### 1 校内での実践

#### (1) 防災学習「台風、大雨、雷、竜巻から身を守る」

台風、大雨などの発生メカニズムについて、これまでの既習内容を振り返りながら、その特徴について理解を深めた。また、大雨などが起きた場合は、どのような危険が予想され、どのように身を守ればよいかについて考えた。



防災キャップの試着

#### (2) 1年調べ学習「防災マップの作成」

過去に起きた自然災害について、家族等から聞き取り、住宅周辺の危険個所を把握した。それらを学校に持ち寄り、学校区の防災マップを作製し、マップ作製経過等を発表した。発表によって、共有することで、自然災害に対する危険意識や防災意識を高めた。



防災マップを見比べよう

ア 東日本大震災の被害状況について

イ 市町村のハザードマップについて

ウ 地域名に入っていると「危ない」と言われている漢字について

猪苗代の自然について(森林環境学習) 7月2日(木)

「磐梯山噴火と猪苗代町の自然環境の変化を知る」森林環境学習から

#### ○ ねらい

- ・ 郷土の自然や歴史、環境について理解を深め、郷土に誇りをもつことができるとともに、それらを保全していく気持ちを養う。

#### ○ 内容

- ・ 地域の自然環境や自然災害等について理解を深め、将来それらに直面した場合に、適切な意思決定や行動選択をしようとする意欲や態度を養うことを目的に、講師3名とともに銅沼、磐梯山噴火記念館、五色沼などを訪問し学習した。

【日程】 8:50 裏磐梯スキー場⇒9:10 銅沼⇒11:15 磐梯山噴火記念館(昼食)  
13:10 五色沼



【A】 リゾートスキー場から側から見た猪苗代湖



【B】 裏磐梯スキー場から見た檜原湖

A の写真は磐梯山の南側にあるリゾートスキー場から見たおよそ5万年前にできた地形である。B の写真は、磐梯山の北側にある裏磐梯スキー場から見た1888年(明治21年)にできた地形である。“岩なだれ”でできた流れ山地形という。磐梯山は過去に数回、噴火で山自体が崩れて、岩なだれが発生した。1888年も5万年前も同じ現象である。岩なだれが発生すると、麓に小高い丘をいくつも作る。それを流れ山という。この岩なだれは、磐梯山だけではなく、安山岩タイプの成層火山であれば、どこでも発生することを学んだ。



○ 銅沼にて リトマス試験紙で水質検査



### ○ 五色沼周辺

五色沼周辺は、もともと国の土地であり、国は磐梯山噴火後、植林に成功すればその土地を安く譲ることにした。何人かが植林を試みたが、成功したのは遠藤現夢さんだけであった。彼は、植林が必ず成功するように、1本でもしっかりと育つことを願い、アカマツをまとめて2本3本植えたそうである。遠藤現夢さんは裏磐梯の緑化の父と呼ばれている。



いま、こうして裏磐梯に広がる風景は、人と自然がもつ力でもつ力で復興したことを学んだ。



### ○ 生徒の感想

- ・ 猪苗代湖や檜原湖などのできた仕組みが具体的に分かった。
- ・ 磐梯山の噴火による災害の恐ろしさが分かった。また、噴火により美しい自然があることも分かった。
- ・ 昔の人が苦勞して森林環境に携わっていたことも分かった。さらに、今の猪苗代の自然環境を守り、猪苗代はすばらしいと誇りを持ち、後世につなげなければいけないと思った。

### (3) 2年調べ学習 「災害時の外国人への支援」

猪苗代町にはたくさんの外国人観光客が訪れている。災害時に避難場所に避難してきた外国人に対し、どのような支援ができるかを考え、対応できるための実践力を習得することをねらいとした調べ学習に取り組んだ。特に、外国人の困り感に対応していくためのコミュニケーション力を身に付けるために、シミュレーションを繰り返した。



ア 東日本大震災 被害状況について

イ 災害時の持ち物について

ウ 英語・韓国語・中国語をなど日常言語としている人への支援について

- ・ 受付 案内 連絡 臨時保健室開設準備の手伝いなど
- ・ ピクトグラムなどの利用

#### (4) 3年調べ学習「自分たちができる避難所での支援活動」

災害時の避難所には、様々な「困り感」をもった方が生活を共にする。災害時には、どのような人にどのような「困り感」が生じるのかを調べたり、体験したりすることによって、避難所でのボランティア活動に主体的に組むための実践力を身に付けるために学習等に取り組んだ。



ア 東日本大震災 被害状況について

- ・ 修学旅行の訪問先で「地震・津波」が起きた時の身の守り方、地震後、津波が来ることを知り、高い所へ避難する意識化の徹底

イ 日本赤十字社の活動について

ウ 災害弱者(全盲の方、車椅子利用者、高齢者など)への支援について

- ・ 避難所への誘導 非常食配膳 食事サポート 困っていることの対応

文化祭での公开发表 10月31日(土)

#### ○ ねらい

- ・ 自助・共助・公助の精神を培う

#### ○ 内容

- ・ 文化祭(ひいらぎ祭)において、学年ごとにステージ発表や掲示物にて実践を保護者に公開した。

#### 1 学年の様子

森林環境学習の内容紹介と「災害時に自分の命を守る方法について考えよう」

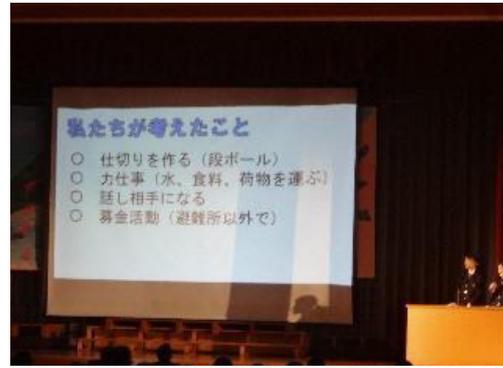
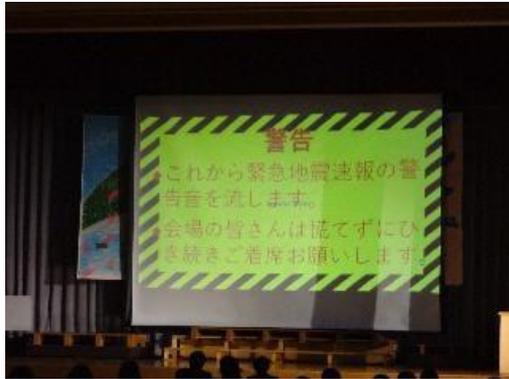




2学年の様子「災害時に自分たちができることを考えよう」～避難所でできること～



3 学年の様子 「防災を考える」 ～中学生の私たちにできること～  
「旅行中の災害対策」編



調べ学習や教科の授業で学んだことで、自然災害が発生した場合の対応については具体的に考えることができ、それらをわかりやすくまとめ、発表や寸劇にできた。また、災害が起きた後の避難生活が大変であることがわかり、中学生としてできる役割を知ることができた。また、普段から地域住民とのコミュニケーションを大切にすることがとても大事だと感じていた。

## 2 講演会の様子

演題 「東中学校と防災」 7月29日(水) 5・6校時  
講師 磐梯山噴火記念館 館長 佐藤 公 様

### ○ ねらい

- ・ 災害の自然的・社会的要因をつかみ、今後の防災体制を考えさせる。
- ・ 災害から生命を守るために必要な能力や資質の向上を図る。
- ・ 人間としての在り方・生き方を考え、生命を尊重する心を育成するとともに他者に対する思いやりや助け合いの心、ボランティア精神等を養う。

### ○ 内容

#### 防災教育講演内容

- 1 猪苗代の大地
- 2 気象災害
- 3 地震災害
- 4 火山災害 実験1:成層火山
- 5 磐梯山 実験:2岩なだれ
- 6 安達太良山 実験:泥流
- 7 土砂災害
- 8 災害から命を守る



#### (防災教室に関する振り返り用紙から)

- 災害が起きる前にハザードマップを確認することがとても大切だと思いました。
  - 災害が起きた場合どこに避難するのか、また、どのように、誰と避難するのか、もう少し家族と話し合いをしなければいけないと思いました。
  - 学んだことはたくさんありました。さらに、命の重大さを実感する事ができました。そして、学んだことを生かして行動したいです。
  - 自分が思っていた以上に自然の恐ろしさが分かり、それを乗り越えるには地域の人々が一つになり、まとまって安全な行動をとるとというのが、一人でも数多くの命を守ることにつながると思いました。
- 改めて、自分の住んでいる所が危険な地域だと実感したこと、絶えず危機感をもって行動するという事を大切にしたいです。また、同時に素晴らしい自然の恩恵を受けていることも知りました。

### Ⅲ 成果と課題について

#### 1 成果

- 生徒は、災害のメカニズムを学んだり、被害の実態を聞いたりすることにより、これまでに経験のない災害の怖さを身近なものとして感じつつある。様々な災害から自他の命を守るために、どのような行動をとればよいかについて主体的に考えるようになり、自分のとるべき行動について、それが最善の方策なのかを自問自答しながら行動する生徒が増えてきた。
- 避難者対応等への取り組みが表面的な学習や活動で終始してしまわないように、生徒・教職員ともに災害の怖さを十分認識できるようにした。学習や備えをすることでその怖さを軽減できることを実感することができた。
- 「災害は自分たちの地域にはあまり関係のないことだ」と思っていた生徒も、学習をとおして「災害はどこでも起こり、いつか自分たちが直面する問題である」ということを知り、防災教育の重要性を感じることもできた。
- 災害弱者への支援等、災害時にできるボランティア活動の必要性についての理解は進んだが、文化祭での寸劇を取り入れた避難所支援の発表は、実際の災害場面とは違い、大変甘い想定となってしまった。しかし、生徒たちにとっては、調べ学習で学んだことを実際の場で活用していくための勇気と自信を得た貴重な機会となった。
- 外部講師の協力を得ながら、地域を知り、地域を意識し、地域から学ぶ防災教育を推進することができた。それらをとおして、自分や家族の生命を守ると同時に、地域のために何ができるのかという防災意識を高めることができた。
- 防災教育をとおして、外部講師との新たなネットワークを構築したことで、地域と連携した学校づくりをより一層充実させることができた。

#### 2 課題

- 災害が起これば、学校だけにとどまらず、家庭、地域、教育委員会、警察、消防、各種団体等との大規模な連携、ネットワークによる防災活動が必要であるが、いざという時に学校としてどのように対処していくのかが明確になっていない部分があり、体制づくりが今後の大きな課題となった。
- 防災教育の素材やコンテンツは、数多く存在するが、それらの素材やコンテンツが、何を伝え、何を学ばせるのか等が明確になっていないものも多く、目的に応じた学習が難しい面がある。
- 時間の制約や地域連携体制の不十分さもあり、生徒たちに十分な体験活動を行わせることができなかつたため、失敗することで気づきを得ることやアイデアを創出することにつながる機会が少なかった。